

喜田議員 皆さん、おはようございます。私は昨年の6月初めて、この場所に出させていただき、今までに数回質問をさせていただきました。その度に改めて身が引き締まる思いで牟岐町のために頑張らなければという気持ちになります。本年度は、新型コロナウイルスの影響で、日本をはじめ世界中が大変なこととなり、牟岐町においても同じく大きな影響を受け、活気もなくなっているように思います。町長をはじめ町職員の皆様におかれましても、想定外の業務で大変なことと思いますが、今後も皆様と力を合わせ魅力ある牟岐町になるよう頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。それでは、私から通告していましたが、通告書に基づき次の2点について質問させていただきます。まず、最初に建設課所属の普通作業員の増員についてお伺いします。現在、建設課では、現業職員1名、パートタイム会計年度任用職員2名の計3名で町道の維持管理など、現場作業員として従事していますが、町民からの依頼や地域からの要望などが多く寄せられ、対応に苦慮されているとお聞きしています。特に夏場では、町道の除草剪定作業の依頼が多く寄せられ、現在の作業員数では対応が追い付かず、町民からは依頼しているが、なかなか作業に来てもらえない。また、作業員の人数をもっと増やすことはできないのかなど、不満の声も出ているとお聞きします。その作業員は、今年度より会計年度任用職員の採用となり、1週間の就労時間が31時間と限られるため、実質週4日の勤務になるとお聞きしました。現業職員1名と週4日勤務の作業員2名で作業への対応は非常に厳しく、時には建設課長をはじめ課員が現場に出向き作業を行っているとお聞きしています。このような状況から今後の対策としては、普通作業員の雇用条件の見直しや増員が必要ではないか、また、特に依頼が多い夏場には、外部団体への委託も視野に入れてはどうかと考えますが、現在の対応状況を含め、次の点にお聞かせください。①特に忙しい夏場の除草剪定作業などを現職以外への依頼を考えないか。②現在、町民からの要望にはどれくらい対応できているのか。③現状での対応策として、どのような対策を行っているのか。④今後、現場作業員の就業内容や増員については、どのように考えるのか。⑤現場作業員において、資格の取得や安全対策についてはできているのか。よろしくお祈いします。次に鳥獣被害の中で、猿による農作物などの被害対策についてお伺いします。農業関係者から、猿、鹿、猪などによる農作物の被害が非常に多いと、よく聞きます。その中で鹿や猪などは猟友会の駆除により、少しずつ生息数も減少していると聞

きますが、猿については群れで行動し、群れの数や生息数も把握できない状況だと聞きます。この夏には稲刈り直前に水田の一区画が猿による被害で全滅し、収穫が全くできなかったという農家にとっては、大変深刻な問題となっています。また、この猿による被害の声は、家庭菜園や畑を楽しむ一般町民の皆さんからも多く寄せられています。猿は鹿や猪に比べて知能が高く、なかなか捕獲も難しいという上に複数頭でやってくるため、一度に大きな被害を受けることとなっているようです。捕獲方法の一部として、大きな檻などの仕掛けが一番多くの数を捕獲できるとのことですが、それには誘因数、餌が必要で捕獲数を増やすには、比例してたくさんの餌が必要となるようです。とは言え、この状況では猿の数、そして被害も増え続けることと思います。少しでも被害を少なくするために、今以上の対策を打たなければいけないのではないかと思います。この猿による被害は、猿の生息地が山奥から人里に移ったためと考えられ、その原因の一つに人口減少による里山の維持ができず枯れてしまったことや雑木林を伐採し、杉や檜などの植林により、人工林化してしまったことが挙げられます。そこで長期での対策となり、即効性はないのですが、例えば、条件の整った人里に近い町有林や提供いただける民有林などの皆伐を行い、搬出材の販売利益で里山に猿の好物とする山栗や山柿など、苗木ものの広葉樹の植林を行い、猿を人里から山へ帰すという、長い目で見れば、このような計画も必要なのではないかと思います。このようなことも踏まえ、次の点についてお聞かせください。①担当課では、猿の出没情報や住民からの連絡にはどのような対応を取っているのか。②現時点で、猿の被害状況などはどれくらい把握できているのか。③猿の駆除については、どのような対策を行っているのか、また、捕獲する檻の数を増やすことや餌代の補助についてはどう考えるのか。④今後、猿の被害に対し、どのような対策を考えているのか、以上、よろしくお願い申し上げます。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 喜田議員の建設課普通作業員の増員についてのご質問のうち、私からは1番、3番、4番の項目につきましてお答えし、建設課長からは他の項目についてお答えをさせていただきます。議員ご質問のように、令和2年度から臨時

職員は、会計年度任用職員制度に移行し、建設課普通作業員はパートタイム会計任用職員として雇用しています。勤務時間は、週5日、38時間45分から、週4日、31時間になり、勤務時間が短くなっています。また、4月から3名を雇用していましたが、6月末で1名退職し、補充できていないことから、議員ご指摘のとおり、除草剪定作業など町道等の適切な維持管理が遅れています。ご質問の現状での対応策として、どのような施策を行っているのかですが、7月になり建設課の現場の体制について協議をしています。協議の結果、今年度については臨時的な対応として、建設課内での対応や各課からの人員の応援を受けて町道等の維持管理を行っています。このことから夏場の除草剪定作業など、現職以外への依頼は今年度については、現時点では考えていません。次に今後、現場作業員の就業内容や増員については、どのように考えるのかですが、来年度の夏場の繁忙期については、就業時間の見直しや増員、また、人員が確保できないときは、一部外部委託を含めて検討してまいりたいと思います。次に猿による農作物などの被害対策についてのご質問にお答えします。猿による農作物への被害については、ご指摘のとおり、農業者が一生懸命に育てた作物が収穫直前に被害を受けるので、生産者にとっては、今までの労力が報われず、大変悔しい思いをしており、中山間地域が多い本町にとっては、大きな地域課題の一つであると認識しています。従来、森で生活する動物である猿が、なぜ民家周辺に現れるようになったのかは、人工造林によって食べ物が減少したことや野犬などの敵がいなくなったことなど、様々な要因が考えられますが、学習能力が高く一度覚えたことは、次の世代に引き継ぐ能力を持っていることにより、人間が作った美味しい作物の味が忘れられないことが里に下りてきている理由であるとも思われます。非常に頭をかかえる猿対策ですが、ワイヤーメッシュ柵と一体となった電気柵の設置をはじめ、猟友会のご協力をいただきながら、おサル110番と題して通報による追い払い駆除を数年間実施したこともあります。猟友会の皆様方には昼間でも連絡があれば現地へ行っていただき、大変なご協力をいただきましたが、追い払いには一定の効果があるものの猿の現れる回数が勝ってきたた

め、捕獲駆除の方向に方策の変更をしているところです。今後も猟友会と連携して会員の皆様のお力をお借りしながら、猿の被害が減少するよう努めてまいりたいと考えています。被害状況等それぞれの質問につきましては、担当課長よりお答えします。よろしく申し上げます。

一山議長 木田建設課長。

(木田建設課長 登壇)

木田建設課長 皆さん、おはようございます。私からは、喜田議員の建設課普通作業員の増員について、町長の答弁の補足説明をさせていただきます。ご質問の現状での、町民からの要望にどれくらい対応出来ているのかについてですが、要望箇所の現場確認をして優先順位をつけて、作業をしています。作業依頼者には、作業ができる時期を伝えて対応しています。除草剪定作業など町道等の維持管理について、遅れていますが、ご理解申し上げます。次に、資格の取得や安全対策についてです。資格の取得については、業務に必要な技能講習や特別講習、安全衛生教育について、講習時期にあわせて受講しています。安全対策については、チェンソーや刈払機などの振動機具を扱いますので、振動工具管理責任者を選任し、点検・整備等を行っています。また、労働安全衛生委員会による職場点検パトロールも行っています。以上です。

一山議長 田中産業課長。

(田中産業課長 登壇)

田中産業課長 私からは、猿による農作物などの被害対策についてのそれぞれのご質問についてお答えします。まず、猿の出没情報には、どのような対応を取っているのかとのご質問ですが、昨年の夏以降は猟友会のご提案により、町職員が町内で猿の出没を確認した場合、猟友会会長へ連絡すれば、会員が現場へ駆けつけ、追い払い駆除を実施していただく体制となっています。また、個人的に猟友会の方に連絡をして対応していただいているケースもあると聞いていますが、

どちらとも連絡を受けた会員が現場に着いた頃には、猿がいなくなっていることが多いようです。次に猿の被害状況の把握についてですが、町としましては、直接農家の方などから情報を集めており、今年は平野、笹見、喜来地区の被害が多い傾向があります。徳島県が町と農業共済組合の情報をもとに作成している令和元年度の被害状況調査結果では、猿による被害面積が19アール、被害金額は28万9千円で主に水稻への被害となっています。次に猿の駆除については、どのような対策を行っているのかとの質問についてお答えします。町長の答弁にもありましたように、追い払い駆除から捕獲駆除へ対策を変更してきており、現在、町内8箇所に大型檻を設置して、年間約30匹の捕獲実績があります。また、猟友会独自により昨年度から今年にかけて、小型捕獲檻を28基導入し、6匹の捕獲に成功しています。小型檻は大型檻と比較すると、冬場の餌が少ない時期の捕獲も期待ができる点で有効であると考えています。また、徳島県の被害ゼロ集落事業による、昨年は灘地区を対象として講習会を実施した上で、エアガンを導入しています。今年度も引き続き被害の多い地区での導入を計画しています。なお、今後の対策につきましては、議員提案の天然林の再生も一つの対策として有効であると思いますが、近年は冬場の気温上昇の影響もあり、猿の繁殖には最適な環境となっていますので、猿の群れを把握するための発信機を使ったテレメトリー調査や移動式大型檻などの導入を検討するとともに、捕獲檻の餌の確保のため、農家と連携して廃棄する作物を譲り受け、利用するなどを考えていく必要があると思っています。今後は、今まで以上に猟友会との情報共有を積極的に行い、少数でも安定した捕獲を目指してまいります。以上です。

一山議長 喜田議員。

喜田議員 只今、町長をはじめ担当課長よりご答弁をいただきました。ありがとうございます。この普通作業員の人員不足についての問題は、建設課だけの問題ではなく、他の課にも影響を及ぼしていると思いますので、今後、より柔軟な考え方で町民の要望に応じていただく体制を整えていただきたいと思います。また、猿の対策につきましては、被害を減らすことは、そう簡単なことではないようですが、地域での有効な対策や成功事例なども取り入れ、今後も国や県からの補助なども利用しながら、猿被害撲滅に取り組んでいただくことをお願いしま

して、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。